

# 角田山山行報告

【山行日】 2025年 4月 6(日) 曇り時々晴れ一時雨

【集 合】 岩舟支所P AM 5:30

【費 用】 マイカー2台 : 6,300円

【メンバー】 CL:鈴木、SL:大西 青柳、植竹、大塚、佐藤、嶋田、並木、渡邊ト

【コースタイム】岩舟支所 5:30＝角田浜 P8:00/8:20～桜尾根登山口 8:30～角田山 10:15～向陽台 10:25/11:05～角田山 11:15～三望平 12:00～角田岬灯台 13:10～角田浜 P13:20/13:30＝赤城 SA15:40/16:00＝岩舟支所 P17:00

3年前に見たオオミスミソウとカタクリの花が忘れられず、もう一度見たいとリクエストがあり計画した。ところが天気予報は曇り一時雨の予報で心配したが、前日の予報で昼過ぎまで曇りの予報に



変り決行した。岩舟支所を5:30に出発し北関東道から関越道、北陸道を進み、巻瀧東 IC で降りて国道460号線を西に向かって走る。ナビは途中から右折して角田山の北側の道を案内するが、遠回りになるのでそのまま460号線を進む。五ヶ浜で日本海に出て、右に海岸線を北上する。海岸線を走る越後七浦シーサイドラインは景色が素晴らしく、ウワ～綺麗と嬉しそう。3つ目のトンネルを抜けると、まもなく角田浜の駐車場に着く。トイレの側の駐車スペースに車を止め、トイレを済ませて出発

の準備をする。ストレッチを行っているときと地元の登山者がストックを見て、「ゴムキャップが付いてないストックは使用禁止ですから置いて行って下さい」と注意される。「はい分かりました登るときにキャップを付けます」と言うが引き下ならず、「今付けてください、キャップが無いストックは置いて行って下さい」と強く言われキ



ャップが無いストックは置いて出発する。駐車場を出て道路を右に進み、300m位先で道路を渡ると桜尾根登山口がある。ここから山道に入り急坂を登って行くと、登山道の両側にオオミスミソウが咲き乱れている。皆さんスマホで花を取りながら登り、ゆっくり登るので息が上がらず登れる。花の時期は後半戦だったが、まだまだ見応えは十分あり大満足。イカリソウやキクザキイチゲ、

エチゴエンゴサク等の花やカタクリも見られ、地元の人々が愛するまさに花の名山である。

急な尾根道を登り高度を上げて行くと、オオミスミソウは少なりカタクリが斜面を埋め尽くすようになる。皆さんもこれほどの群生地は初めてのようで、ウウ～凄いとスマホで撮りまくっていた。カタクリ



リ、カタクリ、カタクリと花を楽しみながら登り、とても幸せな気持ちで歩ける。カタクリの花が無くなり急坂を登ると灯台コースからの道に合わさり、分岐を左に平坦な木道を歩くと角田山山頂に出る。山頂は広く大きな山頂標識や銅像が有り、大勢の登山者が休んでいる。山頂標識の前で記念写真を撮り、ここから東側に向かって緩やかに下ると観音堂が建つ向陽台に出て、ここは絶好の展望台になっておりランチタイムとする。見晴が良い場所のベンチを3つ確保し、お湯を沸か

してカップ麺やスープを作りおにぎりやパンをいただく。サラダや出汁巻き卵、きゅうりの漬物などが出され、雪に覆われた山々の絶景を楽しみながら美味しくいただいた。ランチが済んだら観音堂の前で記念写真を撮り、角田山山頂まで往路に戻る。山頂の先の分岐は直進し、標識に従って角田岬の灯台に向かって下山する。三望平の手前から雨が降り始め、レインウエアーの上衣を着て下る。三望平の先から稜線の両側にカタクリの花が群生し、雨も上がって素晴らしいカタクリの花の中を歩いて行く。平坦な尾根で休憩し、



白いカタクリの花を探しながら花を満喫する。梨ノ木平の先から林の中を下り、岩場に出ると日本海に向かって下るコースは最高の景色である。晴れて来たので露岩の展望が良い場所で休憩し、日本海と白い灯台を見ながらリンゴをいただく。この先クサリの柵がある岩のヤセ尾根を通り、小ピークを越えると角田岬灯台に着く。灯台には寄らず石段を下り、角田浜の波打ち際に下り立つ。山頂から日本海に下るコースは素晴らしく、皆さん大満足の下山となった。



海岸を数分歩くと駐車場に着き、トイレを済ませ

靴を履き替えたら帰路に着く。往路を戻り関越道の越後川口 SA で休憩し、お土産をゲットする。関越道を走ると越後駒ヶ岳や中の岳、八海山の雪景色が素晴らしく、この景色を見られただけでも大満足と話していた。さらに赤城 SA に寄ってトイレ休憩し、予定通り岩舟支所に帰着した。